

伊覽

電

第三艦隊機密第三九二號ノ二六

明治三十五年二月十八日 於上海旗艦新高

第三艦隊司令官川島今次郎

海軍大臣身時齋藤實殿

清國事変ニ関スル警備概報 第百十六號

二月十五日

隔田十五日漢口發大治著

第二駆逐隊十五日佐吉保著

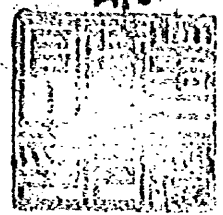
唐紹怡任廷芳ノ昨十四日孫逸仙ト協議多南京向ケリ南京政府
一昨十三日ノ閣議ニ於テ左ノ議決ヲセリトシテ

- (一) 大總統及内閣ハ國民議會ニ辭表ヲ送リ新大統領ト選舉スルニ...
 - (二) 大總統及内閣ハ袁世凱ノ新大統領ニ推薦スルニ...
 - (三) 大總統及内閣ハ二月十五日ヨリ共和建立ノ祝日トシテ...
- 新聞報ニ依リ社説新聞紙臨時共和政府ニ建意對眞面目ニ

軍務局



大要



評論、袁世凱成功ヲ祝シ孫逸仙政治家的態度ヲ賞賛セリ
在北京伊集院公使通報(十五日)

袁世凱ハ又々進退兩難ノ狀ニ陥リ例ニ依リ列國使臣ニ泣附運動
試ミントスルモナシカ外務部曾汝霖ハ其内意ヲ侵タルモノ如ク言
十四日本官ヲ訪問シ孫逸仙ヨリ袁世凱ニ北ヲタル電報ヲ示シ袁
此ニ應シ南下ヲ於テハ豫メ大統領ノ任ヲ希望シ皇帝辭位ヲ行
カ如キ感々國民與ヘ甚々面目カシク勿論孫要求ニハ應セシ決心
出クシハ現在地位ヲ異ク外キ次第ナリ萬一袁ニテ現地位ヲ去ル
直ニ北方ノ秩序乱ルト同時ニ到底平和ヲ維持シ難ク延ク各國ノ
影響スル處計ナカス何諸外國公使ノ意見モ求ムル積リ止ム
本官ノ意見如何ト問ヒ来リタリ云々

清國事情

前州、
概況、
在沙市橋口領事代理通報(五日)

荆州南城外革命軍の満人ニ對シ其引渡セル武器代價及餉銀ヲ
 支拂フ約ナリシガ革命軍ニ財政困難ハ今日ニ至リ遂ニ履行スルヲ
 得ズ又革命軍ニ履行スルノ誠心アルヤ疑ハシ今ヤ旗人ノ兵糧タリ米穀ハ
 既ニ消耗シ尽セル以テ一日食困ニ迫リ寒天ニ先切飢餓ニ頻ニ慘状ヲ
 極ム彼等ハ有ル家具家財婦人裝飾品古玩等ヲ賣却シ甚キハ床
 板屋根カト賣出スルニ至リ沙市商人ハ陸續ニ城ニ等品物ヲ席價賣出
 劇シ盛ニ賣買シ居リ満人中産者以上ニ於テハ時局進捗如何ニ成リ
 行クキカト頗ル不安念ニ駆ラレツカルヨリ財産ヲ賣リテ金錢ニ換ヘ萬
 備ヘ居リヨク尚ホ二月六日荆州天主堂馬神父ノ直轄ニ依リ金銀城
 内満人ノ酸鼻ノ情態存リ西三日前ニ滿人九人約六十名知府衙門
 ニ救恤ヲ乞ヒ續ク天主堂ノ明前ニ來リ號哭地跪キ憫ヲ請ヒトク
 以テ満人ノ現状ヲ察スルニ足ル

前荆州將軍連射氏ハ切リニ荆州ヲ去リ上海ニ下江ヲ望ミ居ルモ唐司令

南京
概況

官ヨリオク護照ヲ發給セザルモノ目下天皇宮ニ滞在中心ナリト云フ

湖南湖北部按撫使王占元ハ世故ニ長シ田滿ニテ能ク人心ヲ安堵セシム

故ニ城内滿人ノ氣受ケ善ク尚ホ滿人街ニ駐屯セルハ城内滿人ヨリ武昌黎

副總統ニ電報ヲ以テ其滞在ヲ請願セシ基ケリト云フ

在南京武部最上艦長無電報告(十五日)

伍廷芳唐紹怡ハ十四日南京著十五日朝參議院令議ニ於テ南北

而政府ノ協議場所等ニ就キ令議中ナリ

十五日午後明ノ孝陵ニ於テ共和成立ノ祝賀アリ孫逸仙列席シ多數ノ

兵士参加セリ革命軍艦水雷艇ハ滿艦飾ヲナシ獅子山砲台旗竿ニモ

ドレツリングヲナシ正午皆テ一發ノ祝砲ヲ發セリト云フ

在南京武部最上艦長報告(十五日)

諾威汽船(Sveby)ハ十五日南招商局碼頭ニ横著シ中華民國北伐

軍隊廣東ト記スル紺色ノ旗ヲ立テ武裝完備シ革命軍約三百

北清概況

八十名揚陸ス

浦口停車場ヨリ下関ニ上陸セル負傷兵十六名アリ、諒兵ハ頭部手足或

全身縋著ス、革命軍固衛生隊ニ于テ付添ヒ居リ、浦口ヨリ

徐州方面ヨリ来リトシ

北清ニ於ケル官軍同軍ノ概況 (軍艦隊清國事件關係要記摘要)

革命軍北清官軍ノ兵カヲ渤海湾方面ニ牽制シ以テ京漢津浦西

鐵路沿ヒテ北進北京政府ヲ衛カントスル北伐軍ノ行動ヲ容易トシ

目的ヲ以テ海峽海深南梁ノ三度又スル北伐艦隊ヲ編制シ、高御銘之

カ指揮官トシテ、連送船新銘新昌泰順公平ノ四隻ヲ搭乗セシ、藍天

蔚總指揮官トシテ一月十五日上海ヲ発同十四日ヨリ、断続吳淞ヲ出發セシ

渤海方面ノ作戰ハ、曩キニ漳州、革命軍既ニ官軍ヲメニ屈服セシテ

四散シ且北伐隊ノ秦皇島方面ニ上陸セントスルノ風説伝ハリ、官軍ハ固方

面出軍ニ方備頭ル嚴シテ到底上陸望ミキキ見ルヤ暫ク是業

三

止ヨリ機ヲ見テ魏子寓又ハ大孤山附近ノ中立地帯内ニ揚陸シ合志ヲ糾
合シテ奉天ヲ攻撃セント計畫セルカ如シ

我カ南東都督府ハ革命軍ノ中立地帯内上陸ハ絶對ニ拒絶ス方對リ
第一艦隊司令長官ハ革命軍力滿洲沿岸ノ中立地帯ニ上陸ヲ企圖スル
場合ニ之ヲ阻止ノ手段トシテ第一勸告第二聲明第三兵力ヲ以テ直接
威圧ノ手段ニ革命軍ニ申込シ其上陸ヲ断念セシメントス

(註) 露曆千八百九十八年四月廿日旅大租借ニ関スル追加條約

租借地区北界ハ遼東ノ西岸カダ山灣北ヨリ起リカダ山
岬(山背亦借入ノ内ナリ)ヲ穿過シ遼東各岸魏子寓灣ノ
北ニ至ル而シテ水面及陸地周圍ノ各島皆借入區域内ナリ大
隙地(中島地ニ意味ナリ)ノ北界線ハ遼東西岸蓋州河口ヨリ
起リ岫巖城北ヲ經テ大洋河ノ左岸ニ迄ヒ同河口ニ至ル所ノ
河口亦其内ニナリトス

北伐艦隊若干陸兵ヲ乗セ一月十四日吳淞北進セリ時北伐隊ハ劉指

揮日指揮下ニ吳淞ニ於テ前記運送船幾船シ出港準備中ヨリ

我第一艦隊ハ濠洲西京丸カ十五日大連ヨリ上海ノ航行中海州ノ沖合約

四十海里ニ位置シ軍艦三隻商船三隻ニ遭遇セリトノ無電ヲ傍力受レタ

ルヨ以テ軍艦常駁ヲ其行動監視スノ山東高角附近ニ派遣セリ十六日

午前七時頃常駁ヨリ左無電報告口接セリ

(一) 華僑軍艦三隻山東高角東方約十五海里ニ位置スルヲ北進中ナリ

(二) 海客型二隻及南琛ニテ南進中ナリ

(三) 右三隻ノ軍艦ハ明カニ其界ニ向ケ航進スモノト判断ス速カニ節本艦

ニト接觸ヲ保ツヤリ

依テ軍艦音羽ヲ其界ニ急航セシメ盡ク洋ヲ滿洲ニ上陸スヤ否ヤノ意慮ヲ

確ク之ニ対スル処置ヲ執ラントセリ

十六日午後三時其北伐艦隊其界ヲ音羽亦今時刻着

芝罘方面

175

一月十五日ヨリ向ク三連向休戦延期トナリ是ニ於テ藍天尉ハ休戦期間
芝罘ニ碇泊シテ八日ノ策ヲ固メテ滿州ニ上陸セントス

十七日北伐隊ヲ搭載セル運送船隻又ハ十七日午後十時吳淞ヲ発シ廿日芝罘
著

十八日午前八時南琛芝罘ヲ革命命擧げ威容ヲ示クテ登州ニ向ヘリ

其日藍天尉直航ニ依ルテ今夜或ハ明廿七日朝登州ニアル海琛芝罘

帰着ヲ待テ北伐艦隊ヲ齊セ芝罘ヲ離ルニ當リ海琛長春列島北

方水道ヲ至テ花園口在河沖ヲ航行シ大孤山方面ニ至リ中支地帯外ノ地

兵ニ軍隊若手ヲ揚陸セントス

公事廿日登州ヨリ芝罘ヲ着廿九日午時兵四百廿名ヲ乗船ヒシキリ

廿九日午後七時海客公事ヲ伴ヒテ芝罘ニ到リ行先不明ナリ

廿日午前七時廿分新高泰順舞鳳榭剛後ニテ芝罘ヲ著

0569

三月一日南琛泰順新昌午前芝罘并登州に向フ

新銘百斤后一時頃登州ヨリ入港新昌亦引キ返ヘシ来リ新銘ヨリ陸
兵及荷物ヲ取来セシメテ夕刻新銘ハ舞鳳ト共ニ出港登
州に向ヘリ

海客三日夕刻西長山列島ノ東方ヲ南下シ芝罘方面ニ向フ

海琛新昌三日芝罘并登州に向フ

舞鳳澄海新銘三日登州ヨリ致遠上海ヨリ芝罘着

三日夜登州ヨリ芝罘ニ入港タル泰順ヨリ四日教百ノ陸兵ヲ揚陸セリ
右ノ北馬方面ニアリシ革命軍登州ニ退却シ芝罘ニ引揚ケ来リタル
モノ也

四日海客芝罘着今半ニ就テ其消息ヲ得ス

五日午後六時革命軍艦船所在地左如シ

- 芝罘
- 海客
- 澄海
- 新昌
- 新銘
- 泰順
- 致遠

登州 海琛 南琛

威海衛方面 舞鳳

公平不明ナリ

大連ニ在リシ藍天蔚ハ五日第廿一永田丸ニ乗リ後着ヲ從ヘ登州ニ赴キ
七日放軍艦海琛ニ乗リテ登州ヨリ芝罘ニ歸來シ八日午後軍艦海琛ニ
移乗セリ

新山東都督胡瑛ハ中華民国海軍陸戰隊約三百名ト昔々閩南ニ乗
船シ七日下午一時昇船出帆九日午後一時芝罘着午後一時海軍陸戰隊
三百名ニ護衛セリ上陸軍政都督府ニ入リ

登州方面

大連ニ於ケル革命急進黨三百名ハ第十の永田丸ニ乗リテ大連ヲ發シ
五日朝山東省登州府ニ上陸シ今地ヲ占領セリ

十九日萊州ヨリ官軍千人余名東上シ黃縣ヲ圍ミトスルノ形勢カアリ然レニ

革命軍ノ勢力ハ僅カニ五百名迄キルヲ以テ援兵ヲ芝罘ニ請ヘリ

廿日革命軍三百名ハ黃山鎗ヲ連セル官軍ノ先鋒三百ヲ擊退セリ

廿日午前特世分海琛芝罘森登州ニ来リ運送昭泰順新田公率

相統ニ旨登州ニ入港若後北伐隊三百名ヲ援兵トシ上陸セリ今隊ハ

廿三日黃縣ニ向ヒトセリ

官軍ハ黃縣西三里ノ北馬村ヲ占領シ其先鋒ハ二十日晝黃縣城ヲ

攻撃セシ革命軍ノシメニ擊退セリ二十日未明革命軍三百北馬村ヲ復

ク奪ヒ復撃シ廿五日之ヲ占領セリトセリ

其報ニ接シ濟南府方面ノ官軍ハ北伐隊ニ対シ攻勢ヲ取ルコトニ決シ

步兵七ヶ大隊構南砲台内野砲十門ヲ步兵第九旅團長ニ指揮

セシ芝罘ニ向ヒテタリトセリ

三日芝罘懷國亭ニ於テ革命軍幕僚ノ語ル所ニヨリ登州方面ニ於テ

革命軍ハ黃縣ヲ棄テ登州ニ退却セルカ如クトセリ

藍天尉ヲ訪召シタルモノ、藉ル所ニ言ハ目下萊州方面ニ官兵約一
營モ現下ノ状況ヲハ敢テ攻勢ニ転スル模様ナドトシテ

花岡口方面

二月一日大連民政署長通報

二月九日長嶺列島方面ニ向テ出帆タル世永田丸二月一日午前八時

大連ニ帰港セリ其乗客ハ革命黨員范國探外日本人四名ナリ

因ニ范國探ハ元奉天第二混成隊步兵第二營督隊官ナリトシテ

世永田丸ノ行動及北伐隊ノ動靜ニ就キ今船長大村六平ノ語所

ニ言ハ本船ハ三月一日午前二時大長山島ニ着ルヤ乗組ニ居リタル革命

黨員九名ハ直ニ下船シ固平船及戎克船ニ分乗セリ本船ト前後ト

大連川崎造船所所屬汽船旭丸(十三屯)モ大長山島来リ今四時五

時頃本船ハ固平船及戎克船ヲ合セ五隻又旭丸ハ同シ六隻ト由キ花

岡口方面ニ出港セリ午後八時花岡口沖ニ達セシ革命軍艦海客運送

0573

船公事ニ隻アリ花園ヨリ兵員ヲ陸上タル國軍船及我克船ヲ
陸岸近ク漕キ行カシタルモ附近ニ炸ノ陸氷ヲ其目的ヲ達スル能ハス
次ヲ本船及旭丸ハ同日午後九時ヨリ翌日午前六時迄碎氷作業ニ従
事シタルモ到底上陸ニ得ル程及ニ至ラズ三日午前七時ヨリ本船及旭丸
ハ國軍船及我克船 全部ヲ曳キ大長山島ニ引揚ケ軍艦海客及
運送船公事亦引揚ケ 芝罘方面ニ向タルカ如シ 埃國本船ニ乗組メル
范國標ノ未達ナル目的ハ花園口方面ノ情况ヲ報告シ今後ノ方針ヲ
定ムル打合せノタカカ如シ公事ハ約半日ニテ兵員ヲ滿載シ居テ運送
船ハ同船ノ外一隻モナシ

在上海駐市陸軍少將通報(十五日)

旅順未電、十四日瓦房店東方水内子廟ニ於テ馮麟閣ノ率ル
歩騎兵約千三百砲十門ノ顧人方ノ率ル革命軍約六百トノ向朝
夕ニ直リ戰鬥アリ官軍勝ニ歸セリ

大連民政署通報

連天蔚昨世日午正一時世分ヨリ滿鐵本社及為署其他諸所ヲ訪
問リ為署未訪ノ際盛、諸ル所大約左ノ如シ

一、今回來連之目的滿洲於我境統一軌程ヲ計ルガタメニ豫
期ノ目的ヲ達セリ

二、北伐隊上陸地矣ニ就キテハ貴國ニ累ヲ及ホサントシテ慮リ常ニ部下ヲ

戒飭シ置キタルヲ以テ決シテ中立地帶上陸事ノコトナシ

三、既ニ滿洲ニ於テハ十萬ノ同志ヲ有スルヲ以テ兵員ヲ募集スルニ容易ニ

シテ敢テ南方ヨリ輸送スルノ必要ナキモ銃器彈藥ヲ得ルノ容易ナキナル

ニハ困難ニ居レリ今因此ノ行ニ際シ銃器三千彈藥百五十方キヲ

携帶セシモ其幾分ヲ登州府等ニ分與シ残余ハ僅少ナルモ此ヲ銃

器彈藥共ニ南方ヨリ輸送シ來ル等リ

大岩家地派出所益滿坐查ノ偵知在所ヨリハ百午前十時迄北伐隊

約六百名武装多高麗城跡附近ニ上陸シテ其他銃器三千五百挺彈

藥七十八方キヲ引續キ揚陸セリ

古陸兵ノ内李蒙臥重二百名大房身五十名峰台地(花園清家地)

北方五清里二百五十名徐家以備二百五十名ヲ配備リ

上陸軍命軍指揮官 張某ニテ部下約百五十名ヲ率井噉台後南

方永寧地ニテリトカフ

今朝未明先登トシテ上陸シテ六十名北伐隊ノ幹部自下トシテ

船塢(家塚屯西方清里)ニ出張シテ六崎警部補ヨリ金州支署長ノ

報告ニ所ヨリハ(三日)

一、上陸多末船カニ船カハ左ノ如シ

軍艦海客 濟船 八号、永田丸、龍平丸、我克士更

二、上陸シタル北伐隊ノ内若干、今夜社園ヨリ龍平丸等ヨリト尤モ社園

口守備官兵(巡防隊)ハ董軍軍上陸ヲ知リ本日既ニ社園方面ニ出テセ

リトシテ

三、銃器二千五百挺、彈藥七十八万發、揚陸ヨリト去會テ是亦之ヲ確シ

計ハス

金州民政支署長通報(四)

二百陸軍北伐隊の内三百名及情守懐ノ部下百名ハ三日未明
 (高麗城跡附近)ノ宿營ヲ發シ……向行進中花園口ノ北方清
 軍ノ王家屯赫家屯一帶地ヲ官兵ニ衝突シ今年前十時猛烈ニ銃
 火ヲ交ヘシ方官軍漸次退却シ花園口北十四丁劉家屯ニ全軍集結シ
 死傷甚シ死体四ヲ遺棄シ花園口海岸ニ沿テ潰走シ革命軍ハ全
 午辰時確實ニ花園口ヲ占領シ官兵戦死七、負傷者不明俘虜二
 名ナリ革命軍ノ負傷者四名ナリトナリ
 四日革命軍ハ花園口ヲ占領後某一部隊ニ共ニ日没迄官軍ヲ襲撃シ半
 夜間ニ停止シ……三日得州巡防隊長陳管帶共負率井水門子ニ
 至リタルトキ顧人宜ノ兵ト衝突シ陳管帶以下哨官二名兵三十俘虜
 トナリシ類ヲ五百年前官兵約百ノ右俘虜ヲ奪還シカクノ大娘々廟
 ニ集ルルモ右俘虜ハ巴ニ合地ニテ再ルヲ以テ更ニ顧家嶺方面向ヒ

0577

タリトシテ

北陸軍少將通報(十六日)

東京未電

二月十五日午後六時三十分発

滿洲ノ中立地帯ニ於テハ行動ハ大ニ我帝國威信ヲ傷タル
モノトシ日本政府左ノ警告ヲ送リテ撤退ヲ要求セリ尔後再ヒ
此如キ行動ヲ行ハル様南京政府ノ當局者ニ警告シ且ツ帝國ノ意思
ヲ誤解セザル様親キ示レ置カセタル

関東都督府ヨリ十三日在芝罘滿洲府ニ交付タル革命軍中立地帯
撤退要求ノ覺書左ノ如シ

貴軍カ帝國政府ノ警告ヲ無視シテ中立地帯ニ上陸ヲ敢テシ加之該地
帯ヨリ撤兵スベキ我再回ノ要求ニ對シ貴官ハ撤兵ノ如置ヲ執ル旨
ヲ諾シタルト拘多末々撤兵ヲ實行セザルニシテ該地帯内於テ戰鬥
行為ヲ敢テシテ毫毛障ル所ナシ是レ帝國政府ノ決テ寛容不能ル處

即チ茲ニ貴軍ヲ引ク左記ノ各項ニ依リ中岳地帯ニテ貴軍ノ撤退ヲナス
ルニ要ス

一、貴官ハ中岳地帯ノ貴軍ヲ引ク可成邊ニ該地域外ニ撤退スルニテ其

撤退ハ本通告受領後(通告翌ヨリ起算ス)七日以内ニ完ラヌ事ナ

二、撤退關シ貴官ハ貴官執ラントスル方法撤退スル場所并現存中

岳地帯ニテ貴軍兵數其配置及最高級指揮官各方面高級指

揮官ノ氏名ヲ本通告受領後二十四時間以内ニ回答セラルヘシ

三、本官ハ貴官ノ要求ニヨリテ貴軍ノ撤退スル所ニ必要ノ保護ヲ與ヘトス

四、本官ハ通告奉テ貴軍ノ撤退実行ヲ監視セシメ我兵カラ各地派

遣ス

五、日本軍ハ國旗ヲ掲揚スルヲ以テ治メテ貴軍軍隊及軍ニ通告

セラルヘキニト

六、本官の第三項の回答に於て所定時限を経過するに於て貴官の裁量に
於て要求の承認を裁量す可きモノト認むる兵力を以て適宜の行動を執るべき
を覺悟せしむる旨の旨を對し何等責任を負はざるものとす

七、本官の第四項の要求に於て共ニ貴官に對し十八日(通後四日)に於て以後
に於て戦闘行為を中止せしむるを勸告をモトス

十三日 関東都督子爵大島義昌

秦皇島方面

森海軍少将より来電(五日)

馬賊 モクリニダレシ外四名南滿洲州領ノ事關シ打合ヒタル旨日未上
海方面ヨリカ不日返答ヲ全テ營口ヨリ上陸シ滿洲ニ歸ラントス彼等ハ
事ヲ滿洲ニ起サハ直ニ三四午ノ部下ヲ得見込リ又南方ヲ協議ノ結
果馮麟閣ノ兵千又黃興ノ護衛兵三百之ニ加ハルヲ苦トナリ居リ
ト云フ此並天尉トハ關係ナキカ如シ

従来那備第一鎮ニ加テ一月六日第一鎮ノ増援アリテ秦皇島
 上陸革命軍ニ對峙セシモノ月廿七日ニ漸次之カ増援軍ヲ北京ニ引揚ケ
 タリト是レ革命軍ノ地上陸ノ模様キト一ニ北京ノ稍々騷擾色顯
 ハセルタメナシト

列國守備兵駁列

英國	自北京至揚村	六八、五哩
佛國	自揚村至北塘	五七、五哩
独國	自北塘至唐山	四一、五哩
米國	自唐山至涼州	三三、五哩
日本	自涼州至山海關	六一、〇哩
露國	天津停車場	

一〇

0581

海列
軍國

海大
軍邦

楚有十四日武昌著

米國カイロス十四日午前七時漢口發下江

米艦「アラバマ」十五日午前十時上海發

英艦「アストリア」十五日廈門發福州に向フ

米艦「バルバニー」十五日南京著

終

0582

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

列國艦艇所在表

二月十五日午後六時調

其他列國

地名	日本	清	其他列國
四川省			ウシヨニ更ドグイト、スレト、オッター
宜昌			サール、ワードモック
沙市	伏見		
長沙			スチノ
漢口	子代田	楚泰、江元、湖鵬、楚有海島 江古、楚觀(海邊)	ナニギル、ウドラック、ミツスル イルケス、99(冊) ハナニ、シニブル(冊)
大沽	鳥羽		
九江	隔田		カドマス、サビイ、ロリス、元カノ
安慶			
蕪湖			ホワイ、ケ、キニ
南京	最上	海軍、聯隊、楚子、鏡清 楚子、楚子、楚子、楚子	ペカ、サ、ウランド ルックス
鎮江	敷波	虎威、江利、辰字	テール、運送、サニ、ヨルバニ

0580

0583

福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州
福州	厦門	汕頭	香港	廣東	其他	其	吳淞	上海	福州

0584

南京政府臨時大總統孫逸仙參議院去十月四日左ノ宣言書
 本總統以我國民ノ意志共ニ建設ノ專制ヲ傾覆スルニアリト
 為ス美師大ニ起リテ全國ノ景從レテ清帝大野ニ鑑ミテ君位ヲ保全
 スルノ必要無知ナラズ知リ遂ニ退位ノ議ヲリ今既ニ退位ヲ宣布シテ
 共和ノ實政レ由奉天國ヲ承認ス此ヨリ帝制ハ永ク中國ノ外ニ留
 存セス民國ノ目的亦已ニ達シテ我國民ノ始メテ當リ本總統
 就ハ退位トシ公債トナリ推選書ヲ宣言シテ實ニ專制ヲ傾覆シ民
 國ヲ鞏固シ我國民ノ幸福ヲ圖謀スルコトヲ任トシレ專制政府既ニ倒レ
 國ノ大業此ヲ成ルヲ望ム年主トシ列邦ニ公認セラルニ至リテ本總統
 心更ニ変乱ナシ民國カ各國ニ承認セラルコト且夕期スレ本總統ハ審
 公意ヲ代表シテ速ニ賢能ヲ舉ケテ南京ニ來リテ事ニ接セシメ以テ解
 職ニ便スレシ
 附 條件ニ如シ
 一臨時政府ノ地点ヲ南京ニ設ケルハ各省代表ノ議定スル所アリ更ニ
 改メシ能ハス
 二臨時政府ノ新總統ヲ奉定シ南京ニ親莅シテ任ヲ受ケルノ

時ヲ俟ケ大總統及國務各省ハ乃チ解職ヲ行フ

三臨時政府ノ約法ハ參議院ノ制定スル所ナリ新總統ハ必ス須ク

孫逸仙ハ前記宣書書ニ次キ參議院ニ送レル表世凱推薦書

今日本總統ハ辭表ヲ提出シ故メテ賢能ヲ舉ケテ要求セリ送

代表ヲシテ北京ニ電ヒテ清帝退位ヲ實行シ表世凱君政見ヲ宣

布シ共和ヲ贊成セハ即チ當ニ提議推讓スルヲ以テ約セルヲ想フ

貴院亦同情ヲ表スルナラン此大清帝退位レ南北統一セルハ表君力実

ニ多シ其以見テ弁表ヒテ更ニ絶対ニ共和ニ賛同ス舉手ケテ總統ト

ナハハ必ス能ク忠ヲ民國ニ盡スヘシ且ツ表君ハ經驗ニ富ム民國ノ總統ハ

賴リテ建設ノオチ有リ故ニ敢テ私見ヲ以テ貴院ニ貢若シ民國前

途為メニ熟計セシコトヲ請フ當ニ送フキノ人ヲ失フ無クシハ大局ノ

幸甚ナリ
在上海加藤海軍中佐通報(十六日)
鉄良ノ部下タル揚紹倫ノ邦人ニ語ル所ニ依レハ
袁世凱ハ英獨ニ依ラントレ已ニ奮昌ヲ獨ニ送り獨逸側ヨリ兵器ノ
購入ヲ企テ萬一ノ場合ニ革命黨ヲ屈服セシトノ準備ヲナシ居レリ

0587

又皇太后ノ寵臣張元福ヲ抱キ以テ皇太后ヲ操縦セリ

(二) 恭親王肅親王溥儀公等ハ趙爾巽ト結合シテ東三省ヲ纏メ

滿州ノ独ミテ企テ北京河島ニ派ホクシテ加ハリ居レリ

(三) 滿地方ニ於ケル服清人ハ今固ニ退位ノ上諭ヲ真ノ退位トハ認メ

居ラス單ニ致政(政權ノ歸還)ナリト信ス居レリ

(四) 孫一旅及浙江旅(武國聯會人ニ倚スルモノ)ハ東三省及蒙古ノ統

取上首有リ北京ニ定ムルコトヲ可トセリ

(五) 孫逸仙ハ革命軍先驅ヲナレ其今自及ヘルヲ以テ功成リ身

退クノ意アリテ寧波ノ躍起組ヲ鎮撫スルノ措置に出テ居レリ之

ヲ要スルニ革命軍今固ニ動乱ハ因ラスモ表ノ野心ヲ成就スルノ結果

ニ致ラントスルモノトシ

在上海有吉然領事通報(十六日)

北京來電表克定カ段西中佐ニ詰ル所ニ依レハ南京政府ヨリ袁世

凱ニ申越シタル南行ノ件ニ南表ハ清帝退位ヲ決行シタルハ人民

塗炭ノ苦ヲ救ヒ平和ヲ復テ希望スルカ為ニシテ元ヨリ大統領位

置テ得シカ為ニマササレハ南京行キノ必要ナシトノ意味ニテ南京ニ

返電スル苦ナリト云フ

尚十三日黎元洪カ政府及國民議會ヲ南京ニ南クテ反對シ武昌說

ヲ主張シ來リタルハ事トシテ石ヲ對シ袁ヨリハ未タ回答ヲ希セス不

日黎ノ持使着京ヲ俟テ何ク決定ヲナス答下リト云フ

武漢
概況

察スルニ表ハ黎カ孫黄一派ト快カサルヲ利用シ且革命急激派ト
親密ナリタル江蘇派ヲ動シ以テ南方革命政府ノ統制ヲ試ミ
アルカ如シ

情國々情

在漢口松村総領事通報(十二日)

武昌革命軍興起シテ以來今月三至ル迄既ニ滿四ヶ月ヲ閱シ且ツ
當初以來常ノ官軍トノ接戦ニ忙ハシク從テ募兵其他諸般ノ
事務ニ於テ最モ苦楚ヲ嘗メノ經營状態モアリシモ他ノ各
地ニ於ケル民軍ノ如ク外訖頻出ニテ統一ヲ缺キ或ハ軍資員義捐
等ノ名ノ下ニ誅求ヲ擅ニスル等トナリ比較的整然タル秩序ヲ
保テ能シク地方人民ノ同情ト信頼トヲ滿チ来リタリ然ルニ日
以來北伐軍ノ前進其他ノタメ多ク頻ノ軍資ヲ要シタルト陰曆
歲末ニ近キタルト依リ漸次軍資ノ缺乏ヲ訴フルニ至リタルモ
如ク同時ニ革命党員ト軍人トノ間ニモ一場ノ紛擾ヲ招キタルコト
アリ今尤モ其梗概ヲ摘録ス

(一) 軍資ノ缺乏 姑々革命ヲ起セシ當時武昌ニ於ケル湖北省庫
存貯金及其他ヲ合シテ尙餘銀銅地金及他貨幣ヲ含ム約四
百萬元ニ綫幣約八百萬元ヲ有セシカ一本計算ハモヨリ正確ナル能
ク其右今月三至四ヶ月間兵士ノ給料及給養其他軍需物品

購入等巨額ノ資ヲ要シ且長沙九江兩地カ武昌ノ獨立ト習ヒテ
 革命ヲ決行セントセシ際共ニ其資ヲ當地ニ仰キ其倉庫數回ノ
 接濟ヲナセシメテ最近武昌ニ於ケル兵數ハ八ヶ師國ヤリト言ハハ
 少クモ約六萬ノ兵士ヲ養ヒ居ルモノト見ルベク又一ヶ月十元ノ貨幣及ヒ
 紙幣ヲ取テ給與スノ給料ナハ六万人ニ對シテハ六カ元ヲ要ス
 即チ兵士ノ給料ノミニテモ事件發生以來少クモ二百カ元以上ヲ
 要シタルハ茅ミレテ兵食ノ入テ月莫クシテ四ヶ月間ハ約五十カ元ヲ
 要シ其他幹部員ノ俸給及諸般ノ設備ホ亦莫大ノ額ヲ要
 シ今ヤ殆ント餘裕ヲ有セサルノ有様ナリ故ニ近日武昌軍政
 府ハ從業員ト武昌ニ限リ僅カニ通用シワカリ湖北官錢局
 ノ紙幣ヲシテ廣シ一般ニ通用セシメント計リ漢口商務總會ヨリ
 以テ商取引ニ對シ從前通り右紙幣中ヲ受授スヘキコトヲ請ヒ
 同地ニ當地各領事ニ對シ其旨照會ヲ弁シ且軍務部ヲ提
 議シヨリ武昌官錢局及武昌商務總會ヨリ錢票ヲ發行シス
 市中中小取引ニ便セントラ四リ一方硬貨ヲ可成回收ニカノ紙幣ノ
 通用地外即チ北伐軍ノ前進駐屯セル地方ニヤリテハ主トシテ銅貨
 ヲ以テ必要ヲ充タスナリ有方融通ノ方法ヲ講究シ新タニ鄂省貯
 蓄銀行ヲ設ケ兵士ノ給料五割ヲ強制貯蓄セルメテ貯蓄債券ヲ
 交附シテアリモ收入ナキ財政ハ遂ニ限リナキ需要ヲ支ルコト能ハス
 今ヤ漸ク資金ヲ他ニ仰カサルハカキル時機ニ到達シ先貨物稅

徴収ラ計画シ過日商務總會ノ要路者ト扱議セルトアリタル
 毛急ニ海員行ノ運ヒニ至ラス且ツ商路内塞シ金融停滞、今自幾
 何ノ稅金ヲ全納スルコトヲ得キヤハ到底疑向タルヲ免レサルヲスレテ
 外資ノ供給ヲ仰カサルハカラサルニ至ルヘシ武昌官錢局臨時總行
 徐某ノ諾ル外ニ依レハ幸マシテ清曆今年末ヲ過サハ勿クテ軍需金
 一欠乏ヲ来スニ至ラズ此際外資ニ依ルノ外ナルヘシ外面平氣
 ヲ杜セ居ルモ單ニ盛威ヲ示スモ過キスニ至ラズ以テ其真相ヲ知ル
 且ツ關シ所ニヨレハ黎元洪以下要路者ト虽モ自ら度ケル所ノ俸給
 ハ近時ニ至リ悉ク一ヶ月廿元ヲ超ユハカラサルコトニ決シ居ルトキ
 三井物産支店カ天津ニテ清國幣制當局者ト契約セシ武昌渡
 ノ銅塊約三千万担ニ対スル代金九万六千余兩ニ對シ最初之ヲ銅
 化貝鑄造ノ資具ニ九千トセシ際ハ金部現銀ヲ以テ一時ニ支拂フ
 ハレト稱ハヤカラ其半額四万六千余兩ヲ償却シ餘ハ三ヶ月ノ猶予
 ナクヒシソトニテ以テ見ルモ武昌革命軍カ軍資ヲ外債又ハ他方法
 ニヨリテ調達スルノ策ニ出ツルハ必ス遠カラサル將來ニアラシカ
 (二)内訌 従来武昌革命軍ノ内訌ハ絶無ナリシトハ言ヒ能ハサルモ外
 間ニ吳亦露セシコトハ殆シト無キカ如ク彼ノ湯化龍ノ奔逃ノ如キモ革
 命党員及軍人兩者ノ校庭ノタメ旧官吏及地方紳縉旅ヲ外債
 セシメタルモノナルモ未タ一般ノ注意ヲ惹クニ至ラザレカ今回軍務部

長孫武、二回追討表ヲ提出セシ事件ヨリ端ナクモ内部、輒輒ヲ
暴露スルニ至レリ

軍務部長孫武ハ武昌革命軍中ノ有力人物ニシテ客年十月日
當地露國租界内ニ於テ爆烈衣彈破烈衣事件アリタル際彼ハ實
ニ其首領者タリシナリ當時面部其他ニ重火傷ヲ負ヒタルモ逃
外國病院ニ至リ外医ノ治療ヲ受ケテ漸ク生命ヲ全ラシ倉庫
元ト共ニ武昌ニ至リ軍務部長ノ要職ニ就キ武昌軍ノ中心トナリ
刻苦勉勵能ク衆ヲ持シ軍務トシテ決ラ彼ニ取ラサルナク黃興
旅カ漢陽ニ破ラシテ下江ニタル以テ革命軍ノ負側ノ重鎮トシテ一
軍隊出身者トシテ折衝シ尚ホ武昌ニ於ケル唯一ノ權勢家トシテ
失ハサリシナリ而シテ漢陽失守後當時英國總領事ヨリハシ
瑞トノ向ニ休戰ノ約ヲ奇シ更ニ平和會ヲ上海ニ開キ至リタル間
策ハ概ネ悉クトシ出テタルモノナリ然ルニ其權威ノ隆ナリハ適々
ヨリ官軍百清里ニ退却後北伐軍前進ノ拳ヲムルヤ彼自カ其總
令官トシテ後軍ヲセントセシ各師團長寸之ヲ排斥セントスル
アリ其意ヲ果サス再ヒ軍務部長ノ職ニ就キタルカ一度彼ヲ
トセシ軍人旅ハ更ニ之ヲ推倒セント計リ北軍司令官段祺瑞カ袁
世凱ノ命ニ依リ皇帝退位決行ノ多ク其兵ノ大部ヲ京畿ニ退却
シムヘキニ依リ革命軍ノ北伐ヲ中止スルニ使テ遣スルヤ孫武亦
其議ニ異リ之ヲ承諾シ令ラ各軍ヲ弁シ前進ヲ中止セムルヤ

壽將帥等ハ之ヲ以テ彼カ軟弱遠ニ表ル歟ニ察セラルモトナシ
 盛シ攻勢ヲ排擠シ試ミ向々軍令ヲ遵守セザラントスルモノアリ且ツ六
 西江西湖南等援軍ノ將帥等亦主戦ヲ望ミテ彼レカ措置ヲ
 攻勢手レ甚キハ武昌ニ集リ短銃ヲ孫ニ擬シテ罵罵スル等形勢
 頗ル不穩ナルモノアリレヨリ彼ハ断然辭職シ其二旅ヲ率キテ當地ヲ
 去ラント欲シ名ヲ病ニ借リ外放治療スト云フニ批レ前後二回辭表
 ヲ提出セシカ物カ不供ハ孫武、離鄂ヲ以テ武昌軍ノ内訌ヲ爆
 発スルニテラス彼レノ有用ナル材ヲ惜ミ穩言之ヲ尉心撫撫任セシム
 ト今時ニ將帥等ノ彼ヲ排斥セントセシモノヲ戒飭ト幸ニトテ一時平
 穩ニ歸スルニ至レリ

在漢口永田千代田艦長報告(八)

京漢鐵道ハ軍需品輸送ノ為メ赤タ公開スルニ至ラス大智門停車場ヨ
 リ劉家廟諸家碼頭口柳家灣三又埠ノ各車站ニ停車シテ存
 感縣ニ達セリ匠々由店木迄運車スメントナリ
 武昌交通科ハ一般人民ノ為メ武昌漢口漢陽間定期流航ノ交通ヲ開
 始セリ
 英租界ハ整齊ノ為メ已所セラレル全國陸軍兵ノ時兵ハ日ヲ以テ全部
 撤去セラル平日如ク巡警ヲ以テ警備セリ同國陸軍士官ノ語ル所ヨ
 陸軍兵ハ數週間右ノ列上ハトナリ

南京概況

漢口宜昌間定期航大元丸船長ノ語ル所ヨリハ革命軍汽船因陵ハ
上車港ノ稍下流ニ擱坐シ居レリ向ク所ニ依リハ独船隻有ハ革命軍ヨリ
其引却シテ依頼サレタルモ 肯セサシスル銃射撃手ヲ漫ケタリ然レトモ感少
ノ損害ナカリト云フ

在南京武部最上艦長報告(十三日)

招商局汽船公平下流ヨリ入港 廂口停車場前ニ繫番ス今般ハ鉄道
用諸材料ヲ搭載セシモノ、如ク客車貨車等ヲ揚陸シラハ、記ヲ前撃
ス

民船數隻ハ贛省學生軍第二營ヲ護衛シ下ニ白米約二百俵ヲ搭載シ
テ湘江ニ来リ下園ニ揚陸汽車ニテ南京ニ輸送セリ

在南京武部最上艦長報告(十四日)

(一) 南京城内ヨリ来リテ浦口ニ渡シタル革命軍ハ
廣東北伐軍三標第一營 二百名(武裝未ス)ニシテ學省桂軍北
伐前敵第一標炬彈隊ト記セル紺色ノ旗ヲ有セリ

(二) 領事館ニ派遣シタル將校ヨリ情報ニ依リハコテンニハ日々總統府
財政部ニ出入レ招商局借款問題ヲ交渉シツアリ領事ノ語ル所
ヨリハ顧問クルノ意志ハナキカ如クト云フ

原口博士十二日來寧孫及黃ヲ訪問ス銀行設立件ニ就キテ来リ
タルモノ、如ク黃ハ武力財力共ニ日本ニ頼ラサル可ラスト答ニ充分賛同
ノ意アルモ孫ハ武力ハ日本ニ頼ルヘキモ財力ハ米國ニ便ルヘキヲ主張シ居

五

福州概況

ルモ、如ク十四日再ヒ孫ヲ訪向シ其体的ノ決答ヲ得ル苦ナリト云フ
在福州并原千早艦長報告(十日)
二月七日福州ヲ奔リ馬尾碇泊、招商局汽船海吳ニ乗ヒニタル第六回
北伐軍約三百名ハ二月八日正午出帆上海ト回リ
革命軍々艦ニ凱ハ二月一日福寧ニ於テ陸兵三百ヲ搭乗シテ渤江ニ合
陸兵ヲ福州ニ輸送セリト云フ

支那海軍

越武十六日午前八時上海着

列國海軍

佛艦クレバール十六日午前八時吳淞着
米艦ロニテレー十六日福州着
英艦「アストリア」十六日福州着
独駆逐艦S90十六日漢口着

(終)

明治三十五年二月廿一日 於上海旗艦新高

第三艦隊司令官川島今次郎

海軍大臣野崎齋藤 實殿

清國事變ニ関スル警備概報 第百十八號

二月十七日

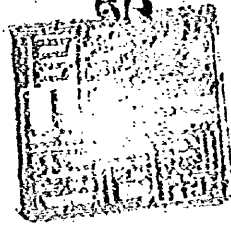
須磨十七日厦門釜山頭ニ向フ
淀十七日附第三艦隊ニ編入セラル

大要

(一)新聞報ニ依リ袁世凱ハ大總統被選ノ通告ニ對シ孫逸仙ニ答電ヲ
 送り南下ノ勸告ヲ辞セリ答電内容ハ明ラカサルモ彼ハ蒙古滿州ノ形勢
 不穩ニ違ハ其北京ヲ去ル能ハサルヲ論シ併セテ外國使臣ハ首都ヲ依然
 北京ニ残留セシメテ希望セリト云ヘリ袁世凱南行不在中適任者ハ與シテ
 北京ヲ治メシムヘシト孫逸仙ハ提議ニ関シ袁ハ孫自ラ適任者ヲ選ムヘト
 云ヒ且ツ其不々無能ニシテ大總統ノ重任ヲ負フヲ勝ハルヲ論シ辞意減
 ヲリト云フ是レ素来ヨリ例ノ慣用辭令ニ屬スルハ明ラカオリ皇族及内閣員ハ
 袁ニ大總統ノ投選ヲ承諾スベキヲ勸告セリ

(二)北京駐格日本公使ハ袁世凱ニ書ヲ送リ日本政府ハ鞏固ナ政府ノ

行



○樹立見ルニ至ル迄ハ日本國民ヲ支那ニ於ケル一切ノ借款問題ニ立テ

入ニノナルヘキヲ言明セリ

右ハ日本ノ提議ニ依ル諸種ノ借款問題ニ関スル極ニ重要事件ニシテ

大倉組及招商局借款ニ関スル袁世凱ノ抗議ニ對スルモノナリトシテ

尚ホ借款問題ニ関シテハプレスノ報スル所ニヨリハ皇帝ノ退位袁世凱ノ投

選ニ伴ヒ招商局借款問題ハ自然消滅ニ歸セルカ如ク數日來同問題ニ関

シ何等發展セズ所ナリトシテ

(三)南京臨時政府ハ特ニ代表トシテ汪兆銘蔡元培ノ両名武昌旅副都督ハ

代表トシテ王正廷ヲ派シ袁世凱代表者唐紹怡ト會同シ先ツ北京ニ

赴キ袁世凱ノ速ニ南京ニ来ラレンコトヲ力勸スヘシトシテ

四十七日奔刊ムガイナプレスニ左ノ記事アリ

孫大總統ハ十五日午前明孝陵ニ赴キテ親シク共和成立ノ祭典ヲ行ヒ後其

官邸ニ於テ臨時政府各部員及陸海軍及士民ノ代表者ヲ接見セリ

大總統式場ニ臨ミントスルヤ祝砲ヲ発シ軍樂隊ハ國歌ヲ演奏シ未合者

一同ハ南京衛戍總督徐紹楨ニ準ヒ起立シテ敬礼ヲ行ヒ大總統ハ

之ニ答礼シテ如キ演説ヲナセリ

本日ハ我國民ノ最も歡喜スヘク而シテ我が歴史ニ特筆大書スヘキ日ナリ

吾人ハ唐政ノ嚮導ヲ脱セントシテ奮争セシメテ茲ニ幾百年今又全國民共
 同シテ一大共和國ヲ建設スベキ自由ヲ得テ南北ノ合同始メテ清皇帝ノ
 退位ハ自由ノ完全ナル回復ヲ意味スルモノニシテ之ヨリ我ガ民國ノ建設總統
 袁宏業ヲ起スベキナリテヤ南方ハ血ヲ注ク所ニ至ク風靡セサルナク北方ノ部
 之ニ反對セシモナリト由モ邊ニ民心ノ大勢ニ屈服スルニ至リ
 余ハ既ニ誓言ニ從ヒテ大總統ノ職ヲ辞シ參議院ハ余ヲ推薦シ基キ袁世
 凱ヲ新大總統ニ選舉セリ而シテ南京ハ國都タルヘキヲ以テ吾人ハ袁君南
 下ヲ就職セラレシコトヲ望メリ苟クモ南北統一ヲ計ラント欲セハ彼必ス南下セ
 サルヘカナルナリ始メ北方ニ於テハ南京臨時政府ヲ解散シ新政府ヲ北京組
 織セシメトテ要求セリト由モ吾人ハ南京臨時政府ヲ持續スルノ必要ヲ説示セシ
 カハ袁世凱君之ニ同意シ且ツ民人ノ熱望セル財源ノ發展及利權ノ確保
 ニ就キ人等同一ノ政見ヲ有スルコトヲ表明セリ
 昨吾人ノ敵タリシ袁君ハ今ヤ吾人ノ良友タリ彼南下セハ一般國民ノ歡呼
 受ケ同胞再ヒ國宗ノ樂シクシヨリ至ルヘシ余ハ臨時政府ヲ代表シ舉
 國ノ歡呼ヲ表シ臨時政府並ニ參議院ノ意嚮ヲ言明スルモノナリ
 袁君ニ依ラサレハ中華長國ノコト而解決セサルナリ彼若シ来ラス或ハ来ルヲ欲セ
 サルニ於テハ是レ吾人ノ誠意ヲ信賴セサルモノニシテ明カニ吾人ニ失望ヲ與フルモ
 ノナリ然レトモ余ハ袁世凱君ハ衷心我國民ノ平和及統一ヲ遊セント欲ス
 信スルカ故ニ彼レノ必ス南下スベキヲ疑ハス余ハ南北合同ノ基礎ヲ確立シテ平和ノ

概況

永統セラシムコトヲ希望スルモノナリ

時職後余ハ諸君ト同ク一何ノ市民タルヘシ余ハ全カヲ尽シ以テ中華民國隆

昌ニミナス所アレトス 中華民國萬歲

右演説ヲリヤ再上奏樂シテ式ヲ終リ奉命者ハ中華民國萬歲ヲ三唱シテ散

會セリ

(五)在上海紫雲閣軍ヲ將通報(十七日)

天津未嘗袁世凱ノ命依リ田文烈ハ天津ニ来リ臨時政府設兵ノ準備ヲナシ

ヤリ久ク五憲君主ヲ主張シテケオクシ亦共和ナリ陳三省ハ人ヲ尚ホ独立セント

スル態度ヲ示シツナルモ有力ナル後援者アラセハ到底袁世凱ノ榮寵中ノ

モノトナルヤモ計リ難シ

旅順東電鉄嶺ノ軍隊共和ニ賛成シタル結果形勢カ亦変シ同地ハ十六日午後

六時革命軍ノ手ニ歸シ革命旗ヲ掲ケテ奉天ヨリ巡防隊馬隊各一營同地急

軌セリト云フ

清國々情

在漢口松村總領事通報(十三日)

曩キ軍人派ノ排濟ニ依リ病ニ托シテ勇退外遊セント決セン軍務部長孫武共

後黎元洪ノ懇懇ニ勸告ニヨリ尚ホ軍務部長トシテ留任スルニ決セリト云フ

孫武ノ辭職ハ直ニ武昌ノ不統一ヲ曝露スルト同時ニ或ハ意外ナル變動惹

起スルニ至ルヘク内外人ノ眼ニ深ク注目セシ所ナカ再ヒ留任ニ決シタルハ民軍多ク

0601

大名ノ概況

大ナル幸福ト謂ハサルハカラス
在漢口永由千代田艦長無電報告(十日)
十五日露國商船ハルイマニテ露國陸兵約百十名漢口著裏キ全國租界警護、任アリテ陸兵ト交代スルモノナリト云フ

在大名堀田島羽艦長報告(十日)

大名ニ於テ本艦内ニ催セル紀元節奉祝会ハ甚々盛大ニテ彼我官長ノ承会スルモノ三十八名清人ノ多クハ家族ヲ同伴シ熱誠ナル艦員ノ接待ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表シ極メテ無事ニ閉会セリ
恰カモ數日未ヨリ我陸戰隊揚陸ニ關シ諸言所々起ル際在リ民心ノ疑慮ヲ招クハ策ノ得タルモノニアラザラ思ヒ且ツ我行動ノ寧占鮮明ナルヲ可トスル向訓令ニ基キ茲ニ祝賀會ノ好機ヲ利用シ由澤技師以下礦務局及水泥廠ニ關係ル邦人ノ助力ヲ得テ相互意志ノ疏通ヲ計リ帝國軍艦ノ在名ハ各地方ノ靜謐ヲ保持スル上ニ於テ極メテ偉大ナル効果ナルヲ更ニ知悉セル民心者ニ安ニスヘキ手段ヲ講スルノ批言ヲナサザル等懸々タル和氣ノ向腹着ナキ相互ノ意志ヲ談突裡ニ表示スルヲ得タリ殊ニ大治治縣張銘及大治礦務練隊長タル劉文豹カ其意ヲ諒トシ衷心謝意ヲ表シ將來大治治安ヲ乱スカ如キ所置ハ鄂軍々政府ノ決テ採ラザル所ナリト小官ニ語リタルカ如キ差當リ多ク少ク世流ノ頭腦ヲ有ル前記三名等カ我揚兵ニ對シ或種ノ抗議的態致ニ出ツルキヤヤ掛念シ小官ノ憂慮ヲ勘カラス戒却スルヲ得テ特

鎮江概況

種ノ利權ヲ有スル当地ニ於ケル我々行動上ノ旗色ヲヨリ多ク鮮明ナラシムルヲ得ルハ實ニ欣喜堪ハル所トス

在鎮江福國敷波野遊艦長報告(十五日)

十四日午前八時海軍第一混成隊第二團第三營約五百名(獨式武裝ヲス)ハ招商局汽船同華塔棟以下流ヨリ著る地鎮舞台(演劇場)ニ招艦セリ

十五日午前七時海軍第二團第三營約四百名招商局汽船致遠ニ下流ヨリ著る前記軍隊ト合セリ

福州概況

福州未電当地年未迄リ財政ノ窮乏極度ニ達シ軍政府ハ紳士紳商對シテ約百萬元ノ義捐金募集ヲ開始セリ此ノ募集方法ハ紳士ヨリ四十萬元紳商ヨリ六十萬元ヲ得ントスルモノニテ各人ノ財産ニ對シテ其二割ヲ義捐セザルニテアリ其理由ハ年未迄リ土賊蜂起ニタル場合ニ軍隊其他ノ給養支給抵滯スルニ於テハ一般ノ生命財産ヲ保護シ能ハルヲ以テテ此ノ強制募集ハ一般ニ非常ノ恐慌ヲ来シタルモ生命財産ノ保護ニ對シテ止ムラ得ズ應シ居レリ慥ナル情報ニ目下既ニ四十五萬元ヲ募集シ得タリ

汕頭概況

在汕頭山田東雲野遊艦長通報(十七日)
惠州革命黨林某兵千五百ヲ率井十二日廣東ヲ奔シ當地ニ向ヘリトノ電報アリ十五日朝ヨリ陳某砲台ヲ守リ戰備ヲ整ヘ入港セリ匪徒ト見効シ

廣東概況

擊退スハント揚言レツアリ果テ砲撃セバ否ヤ疑ハント傳フ

林司令官ハ英船金州ヲ十五日午後三時入港陳ハ市民共ニ林ノ兵上陸ヲ拒

絶シ警戒ヲ相對峙セシ方英國領事等ノ勸告ヲ斡旋シ依リ港外ニ返却

十六日午後一時頃揚揚鎗其行先ヲ明セザルモ当地附近ノ一地ニ上陸セト察

セラル尚ホ反戦スルコトアリトスモ都市ニ危険ヲ及ホスコトナカルハシトス

右英船金州ハ廣東ニ引揚クハシトノ事アリシモ行動疑ハレキ事アルヨリ視察ノ

多英艦遊艦シテナス十七日朝出動同艦長ノ希望ニ依リ本官ニ英領

事令艦ニ便乗シ海門附近迄昇レモ上陸ノ如キ形跡ヲ認メス或ハ事案ヲ

返シタルモノナランカ

在廣東大井海軍少佐通報(十六日)

確カナル筋ヨリ聞ク所ニシテ粵漢鐵道ヲ担保スル南京政府借款ノ貸金ハ

米國スシテシトオイル会社ナルト確カナルモ借主ヲ借款ノ増額ヲ希望居

ルモノ未ダ契約締結ノ運ニ至ラズストトハ當地ニ來ルハク言明セル由ナ

ルモノ未ダ到着スル形跡ナシ

去ル十五日西江ニ於テ盜賊約四百名汽船裝撃中英砲艦「サントハイパー」之ヲ

砲撃シ德慶ヨリ派遣支那軍隊ハ該強賊數名ヲ捕縛セリ目下英國、西江

警備艦ハ河用砲艦一艇遊艦一水雷艇四隻ニテ支那、同江警備

支那海軍

列國海軍

砲艦ハ小艇多約十六隻ナリ独逸砲艦亦屢々富地梧州間ヲ巡航ナリ

英徳兩國海軍ノ西江流域ニ於ケル活動注目ヲ要ス

詔武十七日午前八時四十分カ下流ヨリ吳淞著

甘泉十七日南京著

湖鷹十七日武昌著

英旗艦カクナリナシ十七日上海外洋ニ向テ眞波ニ赴ケルモナリト傳フ

独旗艦ニヤルシホルス上十六日厦門ヲ

終

0605

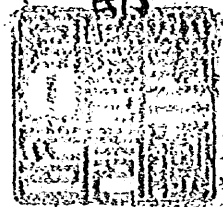
列國艦艇所在表

二月十七日午後六時調

地名	日本	清	其他	列國
四川省				アムステルダム (佛) オッター (佛)
宜昌				サモール (英) ウッドコック (英)
沙市	伏見			
長沙				スナイプ (英)
漢口	千代田	薩泰 (江元湖鴨) 楚有 (湖鷹) (英) 江亨、楚觀 (隱遊)		オウチンゲイル、ウードラック、ミウスル (英) イルタ独 (佛) コナ (英) ユニバーセル (佛) マニチル (日)
九江	鳥羽			カドエス (英) ビーラリス、ヒカノ (英)
安慶				
蕪湖				ホワイチンガ (英) ヤニシヤ (英)
南京	日取上	海軍 蘇杭 楚豫 鎮江 飛鷹 列子 楚敵 楚安 甘泉		ルカサス (佛) ランド (英) ルックス (佛) デール (英) ヲルバニ (英) 米運 (英) サンシヤン
鎮江	敷波	甯城 江利 石字		

明治三十五年二月廿一日 於上海旗艦新高

第三艦隊司令官川島令次郎



海軍大臣野村浩将齋藤實殿

清國事變之周知終言備概報

二月十八日

第一一九號

第二驅逐隊十八日佐七保祭祭兵之向
須磨十八日汕頭着

清國事情

概況 在重慶河面領事代理通報(三十日)

一月十八日重慶ヲ登レ成都ニ向ヒタル者二十四日岷江縣ニ安
着セリ其ノ報道寸スル所ニ依レハ巴縣、永川、大足、梁昌、
隆昌、內江ニ至ル各縣ニハ何レモ軍司令却ノ設置アリ亦
其間アル鎮郷ニ於テハ民國防兵ヲ募集シテ自衛ノ策
ヲ講シツ、アルヲ以テ比較的秩序ヲ保シ人民其業ニ安ニシ
居ルモ小却落ニ至リテハ尚且匪盜賊ニ出沒夥シク軍政府
亦之ヲ掃蕩スルノ餘カナリ鎮壓ニ困難ニ依リトナリ
由來者夫外者人ヲ排斥スルノ風アリシカ革命勦祭以來

0608

愈々其度々高き来しり者成都之居住スル回響吏ノ如キハ殆
 下皆外者ナラハナシ切論同地ハ他者之比シ生流ノ程度
 低クシテ物資豊富ナル所ヨリ一度四川之官吏トシテ人買
 名モハ有城之上着スルモノ多ク爲メ上流社會ハ先ツ外
 者人ヲ滿サルノ有様ナリ然ルニ現今外者人排斥熱漸ク
 盛ニナルニ及ビ彼等ハ危害ノ身ニ及ハントナリ恐心シテ統々下
 注スルニ及リ既ニ二十五日成都ヨリ下注シ来リタル一團ノ如キハ
 民船八十三隻人負千四十余名アリント云フ
 (三)重慶宜昌間ハ水路交通ハ華震以來甚シク秩序ヲ失サス
 只武漢ニ震乱起リシヨリ以來下注各汽船會社ニシテ貨物ノ
 搭載ヲ拒絶シタルト云フ金融逼迫ノ爲メ何主ハ関稅及運賃貨
 仕拂之躬シタルト云フ因リ在比貨ヲ輸出スルコト能ハス專ラ下注
 形勢ト金融ノ緩慢ヲ傍觀スルノ途ナリシカ和議停戦ノ結
 果漸ク昨今ニ及リテ貨物ノ輸送ヲ始メタリ但シ重慶ノ上
 流水路ハ依然トモ匪横溢シテ頗ル危險ナルノニナラヌ殊ニ
 上流ニ於テハ匪徒最モ猖獗ヲ極メ旅客ノ困難ハ切論軍
 政府ニ於テモ運力ノ河道ノ土匪ヲ掃蕩スルニアラハシ貨物ヲ
 運搬スルノ途ナク大ニ憂慮シツマリト叢中ニ成都ヨリ下注
 シ来リタル一團中ニハ元四川洋務局總辦龍綏瑞(湖南長
 沙人)成都知府于守潼(山東有人)等アリ彼等ハ水路

土匪ノ未結集シテ度リハ十餘隻ノ軍隊ヲ作りテ下注シ来リタル
 ニモ拘ハラズ途中幾度カ土匪ノ襲撃ヲ受ケ漸ク叙州ニ着
 セリ全地ハ雲南兵駐屯スルヲ以テ同司令部ニ護衛兵派
 遣ヲ請ヒ其保護ヲ無事重慶ニ安着スルヲ得タ
 リトカフニテ水路危險ノ情況ヲ推知スルニ足ルハシ
 四重慶上流合江縣ハ暴徒ノ同志會軍ハ包圍攻撃ヲ受
 ケタルニ同縣黃知縣ハ同志會軍ナルモノハ所謂匪賊ナル
 カ故ニ義シ開城セハ直ニ掠奪ヲ行ハントヲ恐レ市民請ニ應
 レテ頑強ニ縣城ヲ死守シ專リ軍政府ノ來援ヲ待ツコト
 トハ前ニ通報セシ所ナリ
 是於テ川南軍政府(瀘州)ハ叙州ニ駐屯セル援川雲南
 軍ヲ請ヒテ合江縣ヲ包圍セル同志會軍ヲ解散セシメ
 且ツ全縣ヲ説キテ降伏セシムルヲ依頼シタルニ雲南軍
 ハ直ニ兵七百ヲ急下セシメ一月十七日同志會軍ニ交渉シ
 ト同時ニ城ヲ黃知縣ト報議未同志會軍ニ軍餉ト
 レテ六十兩余ヲ給與シテ之ヲ解散セシメ漸ク開城スルニ
 至リ之レト同時ニ瀘州軍政府司令官黃某及管帶韓
 某ハ部下二百餘名ヲ率ヒテ合江縣ニ到リ城ヲ現存
 スル城尙屋金及其他官銀四十萬兩ヲ軍政府ノ經費ニ
 充ルル目的以テ押収シ瀘州ニ運搬セトセシメ雲南軍ハ

概況

甯城ノ向城、以テ自軍、功勞トシ且ツ將來ノ安寧秩序ヲ維持スルハ
雲南兵ノ責任ナルヲ擅ニ向城ノ存款ヲ搬出スル理由ナシトテ端ナクモ西軍
ノ衝突ナリ、雲南軍ハ遊ニ黃司令官以下三軍名ヲ銃殺セリト云フ之レカ
爲シ、川南軍政府ト雲南軍ト向ニ一大禍根ヲ生シ、蜀軍政府ハ之レヲ調
停ニ願ル苦ハシシヤリト云フ

在漢口永田千代田艦長報告(支)

中華民國公報ニ左ノ記事アリ

先日理財部長ハ大老セントトシテ会社状況調査多謝光燾ヲ各地ニ派遣セ
ラセ、程歸米ニ其報告ニ曰ク

大老セントトシテ会社創設ノ際ハ株金百千カ両ヲ募集セシモ其後経費ノ不足ヲ
来タシテ会社總理ハ特、湖廣漢督張之洞ニ稟請シ日商ニ六千カ両ノ借款
ヲモシテ会社用機軸類ヲ日本ヨリ總テ購買スヘク而シテ技術トシテ経末独逸人ヲ
傭聘シ居ルモ其傭聘期限満ツレバ日本技術ヲ聘スベシトテ訂約セリ、該社創
設ノ場合ハ官立ノ(原文ニ奏辨トアリ)名ヲ用ヒ地方人民ヲ屈制セシメテ計リ
民庫事ヲ摩カスルニ及ビ官立ノ二字ヲ取消シ總理ハ上海ニ赴キ、華清公司ニ
入リトシテ因ニ令公司ハセントシテ会社ノ總辦機軸ナリ
産出ノカントトハ其質頗ル優良ニテ既ニ世ニ名アリ多ク上海ニ輸送シテ
發賣ス、米商人某ノ如キハ其製出セシメテ購買ノ特約ヲナシ居リト云フ

大岩、概況

該会社用元所ノセシ止原料ハ附近ノ山麓ヨリ産出シ其運搬亦至便ナリ
会社ノ占ル所ノ利益蓋シ鮮少ニシテ若シ之ヲ辨理元ニ適当ナル人ヲ
得ル其成績良好ナルヲ致サン惟タ外人所有ノ株券アリカ故ニ將來ニ於テ度
ハ交渉ノ繁ヲ免ル能ハルニシタ
漢口支那市街ニアリシ日清汽船ノ萬里船ハ曩キ軍人砲彈多ク鑿破セラレ
タリレカ埃ノ頃ニ至リ之カ引揚ニ從事シ十三十四ノ兩日浮揚ヲ試ムタルモ成功セズ
今船ハ舷側ニ三華上甲板ニ五華ノ砲彈命中シ現ニ外方ニ甲五度ノ傾斜ヲ
シテ半ハ沈ミテ以岸ニ膠着シ居リトナリ

南京、概況

在大岩堀田島羽艦長無電報告(十八日)
十八日朝武昌ヨリ兵八十名小蒸汽ニ乗ラセテ著明十九日亦同敷ノ兵来
著るを管ナリトナリ右大岩ノ西方約三十浬四社ナル銅山開拓ノ多ク同地方ヲ
保護スニナリト称スモ事實取調中ナリ

在南京武部最上艦長報告(十五日)
(一)十五日午前八時諾威汽船「タク」湘江ニ来リ下関拓高局碼頭横付
シテ揚陸セシモノ右ノ如シ

北伐軍陸軍步兵第三標(隊号各兵胸間ニ
存ル徽章ナリ) 五百名
前記ノ柳紋章及三十字式ト記セル銃器ヲ携帶ス

小銃彈藥

五十四箱 (一箱千發)

3

雜件

軍那

(三) 王統諸ル所ニ依レ信時政府ハ募集兵解散ニ付キ大ニ頭ヲ悩シツカリ
多分相當ノ金莫ク興ラテ解散セザルニトナルハシ云々

本白ハ支那旧曆元旦ニ當リ諸商社工廠ハ悉クヨリ苦力舟車夫ニ至ル迄其
業ヲ休ミ上海港埠ノ水陸靜滯ヲ極メ連日ノ喧噪ニ比レ實ニ別天地ノ思
アリ高革命新政其業ニハシテ時ヲ惜リノ際諸官衙業ヲ廢政論
機關文明ノ指掌ヲ以テ任フル新聞紙迄モ新報ヲ認メ數日莫ク發行
停止ス如キ奇怪ノ極ニシテ又以テ大ニ後景ヲトスルニ足ルニイリトス

楚豫ノ日南京發湘江

終

0613

列國艦艇所在表

二月十八日午後六時調

地名	日本	清	其他列國
四川省			ウシミミ 露 ドクト、ラケ、佛 オスター (独)
宜昌			サール (米) ウドヨウ (英)
沙市	伏見		
長沙			スナイブ (英)
漢口	千代田	樺泰、江元、湖鴨、楚有、 加鷹 (英) (日) 江、楚、觀 (陽選)	ナキヤール、ウドラク、ミツスル (英) イルケス、(独) コレナ (米) ユニベル (佛) マシニル (日)
九江	昌羽		カドマス (英) ビーラロホス、モカノ (米)
安慶	隅田		
蕪湖			ホワイチ、グキニヤ (英)
南京	最上	海軍、聯、鏡、清、飛鷹、 列、建、威、建、安、甘泉	パカサス、ウエラド (英) ルツクス (独) テール (米) ヲルバニ (英) 出選、羽、ナ、ニ、ヤ、ン
鎮江	敷波	虎威、江利、衣字	

0614

備考 ○モニエー(卷十六)福州 ○アスター(卷十七)上海 ○ジャシホ(卷十八)厦門	他	其		廣	香	汕	厦	福	上	長
	中江下	中江上		東	港	頭	門	州	海	江
				龍 田	宇 治	廣 雲 堂	慈 雲	平 泉 殿	新 高 州	卷 五
		楚 予 十 八 日 南 江 誌							保 民 江 貞 公 釣 船 傳 條 卷 三 州 楚 同 宗 字 葉 電 飛 建 湖 草	湖 鷄 武
		ウ ス ク 十 三 日 鎌 江 誌		ロ リ オ ハ ム ア ニ 誌 ウ イ ル ミ ニ ト 誌 ウ タ タ キ 誌 カ ミ テ 一 誌	フ イ タ ー 三 一 カ ス ル テ 一 リ ツ パ ル バ ン デ ー ト 一 誌 ビ シ ラ ト 一 誌	ゼ ー ナ ス 誌	エ ム 誌 サ ヤ ガ ル 誌 ピ ス カ タ ク リ 誌	ア ス ト リ ヤ 誌 キ ー ゲ ル 誌	カ ナ セ ー 誌 ク レ ヤ ー 誌 (佛)	カ ナ セ ー 誌 ク レ ヤ ー 誌 (佛)